



私たちが営む障害福祉サービス、その事業の対価として国や自治体から報酬が支払われます。その額は、サービスの種別によったり、営む事業所の定員であったり、事業所のある地域であったり、その他従事する職員の資格要件の具備状況であったり、様々な条件を勘案した上で決まることになっており、3年毎高齢者福祉の介護保険と同時期に改定が図られます。この4月が

その時期に当たりました。報酬改定ですから、その額の変更は当然ですが、合わせて障害福祉サービスの仕組みの変更、新たな制度の導入であるとかも実施されます。厚生労働省(以下、「厚労省」とする)は毎回の改定に当たり、「報酬改定検討チーム」なるものを組織して、ここに有識者や自治体職員等を委員として配置、年間を通じて様々な課題について

て協議されます。また、全国の障害関係団体からヒヤリングと称して、意見聴取の機会が設けられます。私たちにとっては、この報酬が事業運営を支える経済的な基盤となりますし、予算の柱となります。先日、その改訂の概要が示されました。内容を見てみると…
例えばグループホームでは、障害支援区分2から5までは減

社会福祉法人さざんか会 理事長 宮代 隆治

『報酬改定とは』

おーぷん 96号目次

P1 「報酬改定とは」
さざんか会 理事長 宮代隆治

P3 寄稿『卒園にあたって』
・さざんかキッズ保護者
毛利 恵美 氏
・とらのこキッズ保護者
川地 淑子 氏

P5 北総の里だより
・グループホーム野の花
・北総育成園

P7 各事業所冬だより
・けいよう
・のまる
・カメラアハウス
・ゆたか福祉苑
・とらのこキッズ
・さざんかキッズ
・のまのまホームズ

P10 ご寄付の御礼

額、1と6については増額とな
っています。何より驚いたのは、
今迄世話人さんの配置について
入居者4名に対し1名とか5名
に対し1名とか、事業所が判断
して申請、それが認められてい
ました。4月からは世話人配置
は入居者6名に対し1名が原則
となるようです。私たちのグル
ープホームは、4名に対して1
名をずっと続けて来ました。こ
のままですと、余分な人件費が
掛かります。こんな場合はどう
なるの? 「加算を設けます」とは
厚労省から届いています。人
員配置体制加算という名称で、
入居者6名に対し1名以上の配
置が為されるホームについては、
この加算が適応される由。試算
すると、現行とトントンのライ
ンで増額になるとは言えないよ
うです。知り合いのホームから
は「ン百万の減収だー」の悲鳴が
聞こえて来ました。



4人? 6人? ??



一番驚いたのは、さざんか会
の生活介護事業、サービス提供
時間が現行のままですと約5%
の減収となってしまいうです。
新たな仕組みが開始される4月
まで、未だ僅かながら時間があ
り先行き変更もあるかもしれま
せんが、現段階では厳しい報酬
改定と思わざるを得ません。国
からは6年度25%、7年度に
20%のベースアップへと繋がる
ように、検討した結果との声が
聞こえて来ます。これは処遇改
善加算を前提にしたものです。



もう、15年も以前のことと覚え
ます。介護職員の賃金の低さが
問題となり、前記の加算制度が
設けられました。以後今日まで、
形を変えながらこの種の加算が
積み重ねられ、今3種類の同種
加算となっており、新たに設け
るときに、その都度様々条件が
付けられるものですから、制度

そのものが段々複雑化して、と
ても難解な制度となってしま
いました。今度、新たに4番目の加
算が付加されるようですが、さ
すがに申請等について簡素化が
図られるようです。せっかくの
加算制度ですが、難解で面倒な
故に申請を放棄する事業所もあ
るとのこと。

今回の報酬改定全般を見渡し
た時、こんな風感じてしまっ
たのですが、「事業に対する報酬
はトントンか、或いは減収にな
るかもしれないが、処遇改善加
算により人件費は上げられるの
だから良しとしては」と。

そう思うことに、少し疑問を
持ちます。処遇改善加算は高齢
者や障がい者が利用するサービ
スに従事する人たちの賃金向上
に資するものとして、不可欠な
ものとなっております。受給した
その全額を従事者に分配するこ
とは当然です。ただ、事業に対す
る本体報酬は人件費を含め光熱
水費であったり、備品の整備で
あったり、修繕であったり、運営
に不可欠な出費を支えるもので
あり、その費用として円滑な事
業運営に直結するものです。私
たちの営む事業は、障がいのあ

る人たちにとってなくてはなら
ないものとして、便利がられ重
宝して頂き、更にその利便性な
りに磨きを掛けて行かなければ
なりません。本体報酬はそのた
めにあるものと心得ます。今回
の改定、その先行きに懸念を覚
えるとともに、時間は迫ってい
ますが、少しでも私たちの不安
や疑問を払拭するような訂正が
図られ、もって改善策となるよ
う願うばかりです。



因みに、長年続けられて来た
処遇改善加算ですが、この国の
労働者平均賃金との差異は多少
は改善されましたが、未だ相当
の開きがあるようです。



【寄稿】 この春、さざんかキッズおよびとらのこキッズ卒園を迎えられた保護者様にご寄稿いただきました。

『きょうあさなにたべた』

「きょうあさなにたべた」「きょうのかつどうなにやるとおもう」「きょうのあさばすだれのつてるとおもう」「かえりは」「きょうのきゆうしよくなに」「毎日、毎日、ペチャクチャ、ペチャクチャ。寝る10秒前まで話しています。今では、こんなにおしゃべりな息子ですが、入園当時の年中の時には話すことができませんでした。こちらの言っていることは理解しているようで、意思の疎通はある程度できていましたが、話せるとは言えない状態でした。

3歳から親子教室に通い始め、少し慣れてきてから母子分離の療育を2か所増やし、週5日毎日お弁当。母子分離で送迎が必要な療育施設は、朝は夫が通勤途中に送り、帰りは母が片道35分かけて自転車で迎えに行っていました。雪の日にはブリーザードと頭の中でリフレインし、黄色い合羽に自転車はちよっとシニールだったかもしれないが、私自身はその状況がおかしく、楽しんでいました。

さざんかキッズに通い始めて少しずつ2語文がでてきたり、お友達の名前の一文字目を

「なな」や「と」と表現して身振り手振りでも園のことを伝えてきたりするようにになりました。

息子の話を理解するために、クラスのお友達の名前（フルネーム）とバスのお友達の名前（フルネーム＋バス停の名前）を全て覚えしました。いえ、覚えさせられました。

こんな息子が話し始めたのは、突然でした。年長になった6月頃、私の母に息子をみてもらって用事を済ませて家に帰ると、「こんどばーばのおうちいく」と。

“てつとがしゃべったー!!!”

このときまで “話す” というレベルではなかったのが、初めて “話をした” 瞬間だったと思います。

この日から、言葉があふれ出てくるという表現がぴったりの状態になります。毎日、新しい言葉や表現が増えていき、お友達の名前

もフルネームで覚え、先生の名前も「ぬぬ」や「みみ」と呼んでいたのを〇〇先生と呼べるようになっていきました。

明日、先生のおにぎり柄のエプロンと自分のおにぎり柄のTシャツをお揃いにする約束をしてきたと聞いた時には、驚きとともに子供の成長を感じました。園での出来事を色々教えてくれますが、自分に都合の悪いことはあまり教えてくれません。お友達をたいてしまったり、物を投げてしまったり、感情的になって崩れてしまう等のが絶対あつたはず。ただ、連絡帳に一度もネガティブなことは書かれたことがありません。親への配慮だったのだと思います。そして、何かあったときには電話等、口頭で状況説明をきちんとして下さるので、親としては安心と信頼以外の言葉がありません。

2年間毎日、園に通うのを楽しみにしていて、急な休園のときは「さざんかいきたい」と泣くほど大好きなさざんかキッズも卒園です。入園からの2年間、先生方の温かい指導はもちろんのこと、お友達と接することで、大きな成長を見せてくれました。

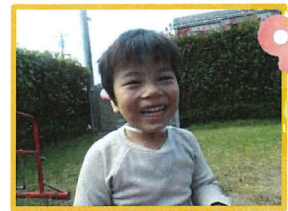
4月からの支援学級でも「きょうあさなにたべた」は続くのでしょうか。



さざんかキッズ保護者

毛利 恵美

『卒園を迎えて』



初めに、関わってくださった先生方看護師の先生、事務の方、バスの運転手さん、保護者の方々、本当にありがとうございました。とらのこキッズに入園・卒園を出来てよかったですと改めて今思います。長男である陸登は二〇一八年三月に生まれました。よく寝て、よく笑い、ベビーカーが大好きで、電車に乗ると本当におとなしく育てやすい男の子でした。しかし、歩きはじめが遅い事や言葉が全く出ない事を心配しながらも、『男の子は遅い子も多い』『個人差』という言葉に甘んじて、のほほんと過ごしていました。次男の誕生に合わせて、陸登が二歳になる頃に今住んでいる所に引っ越して来ました。ちょうどコロナ禍だったこともあり、二歳代はお友達との交流が少なく、少し幼稚園もやっていなかったため、いろいろな不安は増えていました。幼稚園入園前の夏頃、言葉が出ない事が心配になり、近くの児童ホームの先生に相談をしたところ、発達相談センターや親子教室、とらのこキッズの存在を教えてもらいました。この頃は、まさか自分の子がお世話になるとは思っていないでた。念の為に発達センターの予約をし三ヶ月待ちと言われた時はすぐに相談できないという不安が大きかったのを覚えています。同年秋頃に陸登と同年代の子を集めて遊んだ時、他の子との交わり方に違和感がある、と夫が気付き、

調べ始めるようになりました。日頃気になる行動などを検索すると、自閉症の特徴に見事に当てはまり、目の前がどんどん暗くなりました。調べれば調べるほど当てはまり、ネガティブな気持ちが大きくなり、とても苦しかったです。幼稚園入園面接の二日前に、発達センターの初面談がありました。初面談でしたが、『普通の幼稚園に入園しても大丈夫でしょうか』と、質問したところ、『おそらく難しい』このことを言われ、ショックでした。この時に紹介されたのが親子教室でした。すぐに問い合わせをして、翌週から親子教室生活が始まりました。親子教室での陸登はみんなと同じ事ができなく、やる気無く、すぐに寝転んだり、暴れたり、先生をつねったりと大変でした。そんな陸登を見て先生から様々なアドバイスを頂き、療育の先生スゴイ！と感動したのをよく覚えてます。刺激を欲するタイプだから強めに叩いたりして刺激を与えると落ち着く事、伝えたいことは言い切る言葉で伝える事、滑り台はできなくても生きていける事。日頃の小さい悩みがたくさんあったけど、一つ一つが『できる！』に繋がる小さな一歩で、自信のない私に勇気をもらいました。また、保護者の方との交流が初めて共感できる場で、同じ様に悩んでいる方と話ができることがとてもうれしかったです。年中になりとらのこキッズ入園する時、同じクラスにいる年長さんがとてもしっかりしているように見えて、陸登はとらのこキッズでどの様に成長するのか期待より不安が大きかったです。陸登は気持ち言葉を伝えられなく、リアクションも特

に無かったので、楽しかったのか嫌だったのかわからない日々でしたが、連絡帳のコメントにいつも頑張ったこと、出来たことを先生がとても親身になって喜んで伝えてくださることが本当にうれしかったです。些細な変化でも気が付いてくださり、いつも笑顔で陸登に対応してくれる先生に頭が下がる思いでした。特に印象的だったのが、初めてトイレで排尿が出来た時、電話でうれしい気持ちあふれる先生の声での報告でした。こんなにも親身になってくださるのか、という嬉しい気持ちでした。今の陸登は、楽しいときは本当にいい笑顔になり、嫌な時は嫌な表現をするようになり、人の真似をしたり、歌をよく歌ったりする明るい子になりました。まだ出来ない事はたくさんありますが、今までの『できた』という経験があることを信じて、これからも前を向いて向き合っていきたいと思えます。先生方や、今まで出会ってきた保護者の方の支えのおかげで陸登だけでなく、私自身も成長させてもらい、今があります。本当にありがとうございます。小学生になったら、大きく環境が変わるのでやはり不安があります。でも、今までにもいろいろな変化にも乗り越えてきた経験と、とらのこキッズでの楽しい経験を基にさらにステップアップしてくれると信じています。陸登のペースで笑顔の増える毎日になるように家族みんなでこれからの陸登の成長を見守って行きたいと思えます。

とらのこキッズ保護者

川地 淑子



北総の里だより

『高齢化と向き合う』 グループホーム 野の花

管理者 興 梶 孝

朝、洗面所で顔を洗う。ふと顔を見るときみあげに白髪が見える。新聞を読んでいるとおもむろに眼鏡をはずして新聞紙を前後してピントを合わせている。一日に何回も「よいしょー」と声をかけてしまう。自身の老化を受け入れつつ寄る年波には勝てないと痛感する今日この頃・・・。



高齢化の波は野の花や笹川なすな工房にも少しずつ押し寄せてきていると感じる。グループホーム野の花となすな工房の生

活介護を利用しているTさんは今年1月に65歳を迎えた。昨年の6月ごろよりなすな工房への通所が難しくなり表情も乏しくなってきた。月を重ねるごとに顕著になってきた。活発に作業を頑張っていたころは「あまり無理をしないでくださいね」と声をかけると「年寄扱いするな!」とよく怒られた事を思い出す。今はその当時を見る影もなく、細くなった体にしわの顔を見ながら支援している。「今彼に何が出来るか?」職員間でも話し合いを繰り返してきた。支援する内容も介護の領域に及んできている。その対応に苦慮し職員も疲弊していた時期もあった。今、目の前にある現実だけを直視し大変さが仕事のやる気を支配していたように感じた。

利用者支援が私たちの仕事である。困っている事や一人ではうまくできない事に手を差し伸

べてその人が生き生きと活動できるようサポートする事。そこには、日頃の言葉かけや、さりげない観察が必要だ。その人の抱えている課題に目を向けてどのように支援すべきか職員間でも話し合いが欠かせない。変化に対応していくためだ。世話人さんや生活支援員が出席する世話人会議でも克服すべき課題が議題に上がり、細やかに支援したい思いと利用者さん本人が望む支援なのか、皆さん考えが堂々巡りしてしまう。老化に伴う生活面での支援方法もあれこれアイデアを出しあって業務に反映している。どうしても目の前に映る利用者さんの状態にだけ目がいつってしまうので「大変さ」だけが先行してしまう。そのような時は、その人の「バックボーン」にも視野を広げて考えていく様に話をしている。



「人に歴史あり」人それぞれ生きて来た道があり苦楽を共にして今がある。

野の花でもら名の利用者が生活しているが、ここにたどり着く前にはそれぞれの歴史があつて現在に至っている。その人丸ごとを考える事で見えてくる支援のあり方もある。Tさんは、青年期、北総育成園で演劇や下座の文化活動を通じて世界中を飛び回り人々を感動させてきた。生き生きとした顔で写真に写る当時の写真を見ながら話をすると今のTさんしか知らない職員は目から鱗が落ちる思いになるようだ。そしてまたTさんと向き合い支援をしていく。

これから迎える高齢化に向けて我々職員も心構えをきちんと持って支援にあたりたい。「人に歴史あり」広い視点で一人一人をとらえ、そこから今ある課題にフォーカスした支援が出来る様にしていききたいと思う。



北総育成園

『人に良い事』

給食委員長

支援員 諏訪 結香

突然ですが、皆さんは食べることは好きですか？私は食べるのが好きです。美味しい食事から元気や癒しの時間をもらうことができるからです。そんな私ですが、北総の組織の一つに給食委員会があり、今年度から委員長を務めることとなり、一年間活動してきました。主な活動は、月に一度の献立会議と月一回を目安としたお楽しみメニュー（弁当やおやつ）の実施です。献立会議では、支援員を代表して委員会のメンバー数名と看護師さん、厨房の業務委託をしているメフォスさんから3名ほど参加してもらい、食事に関わる様々な情報を共有し、相談し、利用者さんの食事を整えるといったことを行なっています。個々の食事の問題を話し合

うのですが、支援員だけでは悩ましい問題も食のプロであるメフォスさんに入っていたり、ここで解決できることもあり、勉強にもなっています。北総は高齢化が進んでいるので個別食が多いです。常食の他に、一口大の刻み食、ペースト食（北総では超刻みとろみ食と呼んでいます）、プラスで栄養補助食品を提供する方と様々です。また、看護師さんから意見をいただき、例えば「体重が標準より増えているのでカロリーを調整しましょう。」「食事が減ってきているのでご本人の好きなものを提供してみましよう。」など、健康維持を第一に話し合っています。



お楽しみメニューは、利用者さんが楽しみにしてくれていることの一つです。なかなか思うように外出できない中で季節を感じてもらえたらと、様々なメニューを考えてきました。土用の丑の日は鰻弁当、夏の暑いときはかき氷、ハロウィンやクリス

マス、バレンタインにはかわいいケーキで雰囲気味わってもらい、新年は華やかなちらし寿司でお祝いしました。ケーキの時には利用者さんに前もって3種類の中から好きなものを選んでもらい、より好みのものを選びたいようにしてきました。自分で選んだこともあり、「ぼくこれにしたんだよ!」「おいしかった!」と毎回好評の企画です。当日まではポスターも作り、利用者の皆さんがそれを見ながら楽しみにしてくれている姿が印象的です。



バレンタインおやつ
ポスター

イベント以外の月はファミリーストラップなどのメニューから好きなものを選んでテイクアウト風食として行なってきました。食べたいものはそれぞれで、ハンバーグやスパゲッティ、ピザ、お寿司、うどん等、思い思いに選びます。人は本当に美味し

い時ほど無口になるようで、皆さん黙々と完食されるのです。食べ終わると「おいしかったよ!」と満面の笑みを見せてくれます。

食事の時間は一つの楽しみだと思います。安全であることが一番ですが、そればかりを気にして味気のない食事になってしまふのは寂しい事だと思います。「人」に「良」い「事」と書いて「食事」。その人が美味しく楽しく食べられることを大切に、これからも安心安全の食事を考えていきたいと思えます。



おたのしみ食事会（ケーキ付）の様子

けいよう

「はるよ来い、はやく来い」と歌いたい季節になりました。もう春もすぐそこまで!!と行ったところでしょうか。節分の日に近いとある日、レクリエーションの時間を楽しんでいる時に突然、優しそつで可愛らしい?鬼に扮した男性職員が登場!! 利用者さんも興味津々で、見た事あるようなないような: 一体この人誰? という感じで怖がることはなく鬼に近づき、豆の代わりに紙で作ったボールを当てて見事、鬼退治に成功!! 楽しい時間を過ごすことができました。



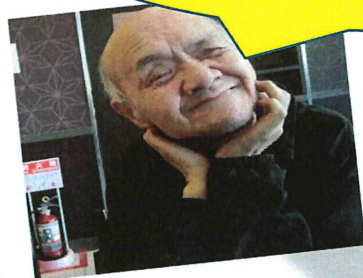
のちね

新型コロナウイルスが落ち着いてきた今日この頃、のまるでは個別外出やグループ外出が本格始動しています。動物園やショッピングモール等に行かれ、いつもと違った体験が出来て楽しまれて来られたようでした。今後も水族館等の予定もあるのでまだ行かれていない方々は、今か今かと日々楽しみに待たれています。皆さまの体調管理を徹底し、健康に生活が出来るよう努めていきたい思っております。

「セブパークアリオ柏にて」
はい、チーズ。楽しかった!



「食事場面の一コマ」
とても楽しかったし、食事も美味しかった!
また早く行きたい!



「活動班のテール班外出」
いつも行かないような場所での散歩
も良いもんだね★弁当もいいね!



カメラリアハウス



「手をつなぐ作品展」に参加してきました。コロナ禍でなかなか参加出来ていりませんが、様々な制限も緩和され、約3年ぶりの参加となりました。コロナ禍で販売も減ってしまい、みなさんの作品がカメラリアハウスで眠ってしまっていました。が、こうして店頭に並んで、いろいろな方の目に届いていると思うと嬉しく思います。

販売会の準備をしているときには「販売は何時から？」と時間を聞いてくるお客さんもいて販売スタートを楽しみにしている方も多くいました。また、商品を並べているときはたくさん作品が出来上がっていたことに驚きましたし、他の事業所の作品を見て、カメラリアハウスの利用者さんの得意なことをどう活かしていけるか、今後の作品作りの参考にもなり、販売準備をしているときもいろんなことを感じる良い時間となりました。販売会と一緒に参加出来たらよかったです。出来ないのでもたくさん売れたことを皆さんにお伝えしたいと思います！

今年は徐々に販売会が復活してくると思うので、その日に向けてまた皆さんで作品作りを頑張りたいと思います。



ゆたか福祉苑

まだまだ寒い日は続いておりますが、日中は少しずつ暖かい日差しが感じられる様になってきました。

ゆたか福祉苑では11月の土曜登苑日に秋祭りを行いました。今回は秋祭りの様子と翌月に行ったクリスマス会の様子をお届けしたいと思います。

午前中は市の公民館でシルバー体操を、教えてくださっている方のご協力を頂き、本館でストレッチと体操を行いました。職員と一緒に協力して頑張っているご利用者様やひとりで行ってみようというご利用者様と様々な方が一緒になって参加されました。

昼食はキッチンカーが来て、焼きそばや唐揚げを受取り、各班で召し上がりました。美味しかったという感想を沢山いただきました。午後も苑庭で青空カラオケがあり、一日を通してのイベントで皆様お疲れのご利用者様もいらっしやいました。笑顔が沢山見られた、楽しい一日になりました。

クリスマス会では各班でケーキをご用意して、サンタクロースの恰好をした職員が一人お一人にお菓子のプレゼントを渡しました。今後一緒に楽しんで頂けるイベントを考えていこうと思います。



クリスマス会



温かい日も増え、春らしさを感じられる季節となりました。
 今回は、とらのこキッズで行なったクリスマス会としまい集
 会の様子をご紹介します。

クリスマス会では、職員の出し物を見たり、
 みんなで『ジャンポリミッキー』を踊りまし
 た。大きなサンタさんとトナカイさんがプレ
 ゼントを持って遊びに来てくれました。サン
 タさんから一人一人にプレゼントを貰い、ド
 キドキワクワクの楽しいひと時になりました。



ししまい集会では、大きなししまいの登場
 にビックリ！怖くて涙するお子さん、職員
 の背中に隠れるお子さんもいましたが、手を振
 ったりのそとと触ってみたり・・・そして、
 一年間、元気いっぱい過ごせるようにし
 まいに頭をパッコン！新春マジックショーも
 楽しかったです。2024年も笑顔いっぱい
 でスタートしました★



活動や行事を通して、たくさん楽しい思い出が出来ました。
 保護者の皆さまご協力ありがとうございました。



さざんかキッズ



2024年！年が明けて1月にさざんかキ
 ヅズではお正月集会が行われました。お正月集
 会ではさざんか神社が建てられ、みんなでお費
 銭をいれてからパンパンと拍手してお参りを
 しました。それから獅子舞が登場！園長先生が
 大きな獅子舞に噛まれて今年も元気に皆が過
 ごせるようにお願いをしました。そんな様子
 を見て「噛まれたらいい!!」と自ら獅子舞の所へ行
 く子ども達もいました。



にし組さんは製作活動に励む年明け！
 くすぐったーい！と思いつながら笑顔で手
 形・足形をとったり、書初めにも挑戦し
 てみました♪

2月は節分！鬼のイラストに豆を投げ
 ていたら本物の鬼が登場!!泣いたり、喜
 んだりや豆投げを楽しみました。でも実
 は鬼の正体は園長先生で最後は笑顔の子
 ども達でした!!



ホーム便り

今回のホーム便りは

節分の豆まきとホームの近くで行われた祭りに参加した際の様子についてお送りします。

2月3日は節分ということで利用者の皆様と無病息災を願って豆まきを行いました。

普段はスタッフが鬼役をやらせていただくことが多いのですが、今年は趣向を変えて交代制で豆まきをしていただき、

両方体験されました。



その後は節分といえはやはり

恵方巻きは欠かせないとこの事で恵方巻きを買いに出かけました。大きさから種類まで色々なものがあり皆さんご自分の気に入った恵方巻きを手にとられています。

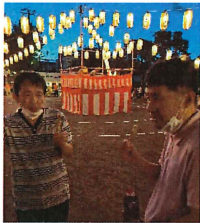


次はお祭りでの様子です。グループホームたんの近くには大きな公園があり、定期的に祭りが行われており参加してきました。

提灯に櫓、祭囃子と豪華でしたがお2人の目的はなんとといっても屋台!!やきとり

など色々なものを召し上がられては満足そうに

過ごされていました。



ご浄財を

ありがとうございました



令和5年10月初旬、山形県の本間様からお電話がありました。平成26年迄船橋市内の小学校で特殊学級の教諭として30年以上教鞭をとられた本間淳子様のご兄弟でした。淳子様がお亡くなりになり、教え子の何人かは「さざんか会」にお世話になり、法人の運営に役立てて欲しいと生前にご兄弟に託されたそうで、少しでもお役立ていただければ幸いです、誠に有難いお言葉を頂戴しました。

各事業所内で検討した結果、形に残るものを購入させていただくことにしました。とらのこキッズは大型遊具、さざんかキッズは遊具を入れる大型の棚、のまるはデジタルカメラ：等。

長年障がいのある子供たちの成長を育み、心血を注がれた本間先生に天国から見守っていただけると、今後法人事業を精進してまいります。本当にありがとうございました。

